

〔畜産農家の声〕

フォーベルネット会員 石原百合子さん

美作県民局勝英支局 畜産班

○金太郎ゆかりの地で

金太郎こと坂田金時ゆかりの地として知られる勝央町。石原百合さんは、ここ勝央町豊久田でご主人の保博さんとともに酪農を営んでいる。

実家は勝央町美野。保育士として岡山市内の養護施設に勤務した後、看護師になるべく津山市内の看護学校に。看護学校に通っていた頃、知人の紹介で保博さんとお会いになり、看護学校を卒業後、結婚。

「実家の近くにも酪農家はあったが、牛はほとんど畜舎の中にいるから、間近で見たことがなかった」。さぞかし結婚後はご苦労されたのかと思いきや、「しんどいよりも楽しみのほうが多い」と笑顔。現在に至るまでも「酪農の大変な部分がおもしろいのよ」と、苦労もプラスに変えて、今の生活を心から楽しんでいる。

○つらいといえば・・・

平成7年にフリーストール牛舎を建設。現在は経産牛90頭を飼養している。起床は早朝5時。「つらいことといえば、朝早く起きることかな」と言う百合子さん。しかし、この時保博さんはすでに餌やりの最中。。。

保博さんが餌やりを終えるまでにミルクングパーラー内で搾乳の準備に取りかかる。保博さんが餌やりを終え、パーラーに入ってきたらバトンタッチ。百合さんは帰宅して朝食の準備。長女（高3）、次女（高1）、長男（中2）を学校へ送り出し、やっと一息。

○自分の時間

趣味は読書、手芸、お菓子作りなど多彩。しかし、「今ハマっているのは『DSの脳トレ（ゲーム）』。子供たちと一緒に夢中にやっています」。

去年は酪農婦人部でニュージーランドへ酪農視察研修へ。「日本ではとてもまねできないけど、酪農に対する考え方について参考になる部分が多かった。」と、研修の成果を熱く語って下さいました。

○扇の要として

「全ては家族の理解があるからこそ、充実した毎日を送ることができています。」と、周囲への感謝の気持ちを忘れない。

「恵まれた勝央町の地でこれからも酪農を続け、家族みんなが健康で暮らしていけたらいいな」。

一家の扇の要である百合子さんの思いが詰まったひとことです。

●取材後記

「フォーベルネット会員として、今後してほしい活動は？」とお聞きしたところ、「酪農以外の畜種（肉用牛、養豚、養鶏）の現場をほとんどみたことがないので、畜舎見学や意見交換会をして、相互理解を深めることができればいいな」とのこと。実現できますように。



（愛犬の”コタツ”と）